愛知大学 2019,2020 年度 FD 活動総括及び 2021 年度 FD 活動

学部等名	FD 活動
法学部	[2019 年度総括] ・9 月 19 日教授会終了後、「成績評価の分布について」というテーマで、教学に関する懇話会を実施した。そこでは、入門科目の成績が、年度や担当教員によってばらつきがあり統一感がないことについて様々な意見が出た。成績評価に関しては各教員に任されていることではあるが、その後の学生生活のモチベーションを保つために、入門科目ではあまり単位を落とさないようにする必要があるとの一致を見た。 ・10 月 3 日教授会終了後、「卒業論文について」というテーマで、教学に関する懇話会を実施した。そこでは、剽窃の問題性について学生に指導するだけでなく、教員自身も気を付けなければならない旨の話し合いが行われた。 ・10 月 31 日教授会終了後、「入門演習」に関して、教学に関する懇話会を実施した。授業内容に関して教員間にばらつきがあるため、これをある程度統一して、クラス間にあまり差を出さない方が学生のためになるという点で意見が一致した。 [2020 年度総括] ・「教学に関する懇話会」が開催されなかったため、FD 活動実施せず。 [2021 年度 FD 活動] ・今年度も一昨年度と同様、教授会終了後に「教学に関する懇話会」を複数回実施する予定である。
経済学部	[2019 年度総括] ・経済学部内 FD 学習会 2019 年 11 月 28 日に「新規着任教員が感じた、愛知大学経済学と前任校との相違点」をテーマに新居先生、田端先生に報告いただき、本学部の諸制度を相対的な観点から検証する機会をもった。また 2020 年 2 月 27 日に「入門演習・基礎演習の運営について」を沈先生に報告いただくとともに、質疑応答等をおこない演習運営上の工夫等について情報を共有し議論する機会を設けた。 [2020 年度総括] ・経済学部内 FD 学習会・外部 FD 研修 新型コロナウイルス感染症の影響もあり外部での研修には参加できなかった。また、遠隔授業の在り方や仕組みについての情報の周知等も急な対応が必要なため適宜教授会において議題や報告事項として取り扱い、学部内 FD 学習会の形式をとらなかったため、学習会は開催されなかった。 [2021 年度 FD 活動] 経済学部内 FD 学習会を開催する。また、すでに 5 月 13 日教授会において学部構成員に教学に関するアンケートを実施することが承認されている。アンケート結果を集約し FD 活動として対応が可能な問題を洗い出し、検討を開始する。
経営学部	[2019 年度総括] ・新入生相互の交流や経営学部ガイドブックを用いたきめ細かな履修指導を中心とした新入生歓迎会（4 月 2 日開催）は、学生スタッフ（学生 FD 委員）の協力もあり、大変盛況であった。学生の視点からより満足度を高めていくことの必要性ときめ細かな履修指導を継続していくことが確認された。 ・第 4 回教授会（5 月 30 日開催）において、2018 年度学修成果アンケートの集計結果をもとに、両学科の現況を確認し、教学改善に向けての意見交換を行った。

	［2020 年度総括］ ・コロナ禍のために大学での学びに不安を感じる新入生の心理的なサポートや修学意欲を持続させるために、新入生を対象とした教員によるオンラインでの茶話会を実施した（2020 年 6 月に断続的に実施、新入生の約 20%が参加）。 ・第 6 回教授会（6 月 25 日開催）において、コロナ禍においても経営学部独自行事として新入生歓迎会を実施することを決定した。新入生相互の交流やきめ細かな履修指導を中心とした新入生歓迎会は、学生スタッフ（学生 FD 委員）の協力もあり、大変盛況であった。学生の視点からより満足度を高めていくことの必要性ときめ細かな履修指導を継続していくことが確認された（7 月 2 日開催、新入生の約 60%が参加）。 ・第 5 回教授会（6 月 11 日開催）において、2019 年度学修成果アンケートの集計結果をもとに、両学科の現況を確認し、教学改善に向けての意見交換を行った。 ・教授会において、「学生の学び」における「入門ゼミ」の重要性を確認し、コロナ禍において春学期に開講できなかった「入門ゼミ」の秋学期開講を決定した（最終決定：7 月 23 日開催の第 8 回教授会）。また、第 14 回教授会（11 月 26 日開催）において、「入門ゼミ」の在り方を含めた意見交換をし、学部費の「入門ゼミ」への 2020 年度予算配分増額を決定した。 ［2021 年度 FD 活動］ (1)新入生歓迎会の実施 ・経営学部ガイドブックを用いたきめ細かな履修指導 ・学生の視点からの満足度を高めるための企画を学生 FD 委員の参加により実施 (2)よりよい教育の実現を目指した議論 ・学修成果アンケート集計結果をもとに、現況を確認、教育上の課題を検討 ・１年次の「入門ゼミ」における「学生の学び」に関した情報の交換
現代中国学部	［2019 年度総括］ ・卒業生(ゼミ生)及び新入生のアンケート 卒業生(ゼミ生)及び新入生のアンケートの結果を教授会で共有したが、教学検討委員会でカリキュラム運営レベルでの改善に向けての討議は行わなかった。 ・授業改善ピア活動 授業見学が 3 回実施された。 ・現代中国学会との連携 現中学会講演会等において、現代中国に関わる広い知識を獲得・共有し、授業改善に役立てた。 ・演習系共通教材の検討・改訂 基礎演習の共通教材を全面改訂し、使用を開始した。 ・動画による授業公開の導入 教員の授業公開を行うための動画を作成し、学部のホームページ上に掲載・公開した。 ［2020 年度総括］ ・卒業生及び新入生のアンケート 卒業生アンケートおよびオンライン授業に関する全学アンケートの結果を教授会で共有した。 ・新入生キャンパスツアーの実施 ４月に行えなかった新入生ガイダンスに代わり、10 月にキャンパスツアーを実施した。 ・演習系共通教材の検討・改訂 入門演習の共通教材を全面改訂した。その後、遠隔授業が決まり、オンライン仕様に再改訂し、使用した。基礎演習の共通教材もオンライン仕様に改訂し、使用した。 ・現地に渡航しない現地主義教育の工夫 <u>現地プログラム</u> 3 拠点の担当者と協議し、オンラインプログラムを構築し、現地での教育を再現するほか、一部の授業は、日本で開講した。実施後、参加者アンケート等をもとに、教学の総括を行い、来期プログラムの改善を行った。

	現地インターンシップ 受け入れ先企業とオンラインを活用した懇談会を 7 チーム各 2,3 回実施し、現地における活動に代えた。実施後、現地インターンシップ委員会で総括を行い、来期プログラムの改善を行った。 現地調査 講義、座談会、調査、報告会等すべての日程をオンラインで実施した。実施後、現地調査委員会および協力関係にある北京外大と総括を行い、来期プログラムの改善を行った。 ・オンライン中国語教育の検討と実施 遠隔授業の実施に伴い、オンラインのメリットを生かした中国語教育を検討、実施した。 [2021 年度 FD 活動] ・卒業生及び新入生のアンケート 卒業生及び新入生のアンケート結果を教授会で共有し、カリキュラム運営や授業デザインの改善に向けて教学検討委員会で検討討議を行う。 ・授業改善ピア活動 各教員は、年一回以上、授業改善の活動を行い、教授会等で報告する。 活動例）授業動画を含む授業見学、教育実践に関する自主勉強会等 ・現代中国学会との連携 現代中国学会講演会・シンポジウムなどと密接な連携をとり、現代中国に関わる広い知識の獲得・共有をとおして授業改善につなげる。 ・現地に渡航しない現地主義教育に関する研究 21 年度も現地に渡航できない状況が見込まれるため、オンラインを活用したより効果的な現地主義教育の方法を探求し、教授会等で報告する。 ・教学活動に関するワーキンググループの設置 教学活動に関するワーキンググループを設置し、定期的に開催する。
国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部	[2019 年度総括] ＜英語学科＞ ・語学の教員同士での授業参観を実施し、授業改善に関する意見を交換した。 ・入試課の職員から、現在の入試状況や高校生の動向について説明してもらった。 ・大学のカウンセラーから、学生の生活状況についての話を聞き、日頃の指導に役立てた。 ・英会話・英作文クラスに関しては 1 年次より能力別クラス編成を行っていることから、同科目担当教員の間で教材を含む授業のレベル調整を行うとともに、授業の運営方法について意見交換を行った。 ・注意を要する学生について、学科会議でその学生の情報を共有し、授業運営がよりうまくいくようにお互いに助言をした。 ・ネイティブ特任教員とネイティブ嘱託教員の間で授業内容に関して週 1 回ミーティングを行い、日本人教員も可能な時にはそれに参加し意見を交換した。・英作文のコーディネーターを各学年に配置し、積上げ式の学習を可能にした。 ＜国際教養学科＞ 学科会議において学科教育に関する意見交換・情報共有(授業運営上の問題や学生の指導のあり方等)を定期的に行い、必要に応じて対処方法について検討した。また 1 年生対象の「入門ゼミ」における導入教育のあり方について、学科会議やメール等で審議を行った。その成果の一つとして共通教科書の採用を決定した。 [2020 年度総括] ＜英語学科＞ ・コロナ禍により春学期はすべての科目をオンラインで行うことになったため、Teams・Zoom を使用した授業方法に関するミーティングを週 1 回程度行った。 ・ムードル上に質問箱を設け、対面授業がない状況下においても学生の質問・相談にいつでも対応できるようにした。

	・大学に来る機会のなかった新入生を対象にオンラインオリエンテーションを春学期の終わりに行い、授業以外の場で言葉を交わすことで彼ら・彼女らの特徴の把握に努めた。 ・入試課の職員から、現在の入試状況や高校生の動向について説明してもらった。 ・大学のカウンセラーから、学生の生活状況についての話を聞き、日頃の指導に役立てた。 ・英会話・英作文クラスに関しては1 年次より能力別クラス編成を行っていることから、同科目担当教員の間で教材を含む授業のレベル調整を行うとともに、授業の運営方法について意見交換を行った。 ・注意を要する学生については毎年学科会議で情報を共有しているが、2020 年度はコロナ禍ということで、特に念入りに情報交換をおこなった。 ・英作文のコーディネーターを各学年に配置し、積上げ式の学習をスムーズに行うようにした。 ＜国際教養学科＞ 新型コロナウイルス感染拡大により春学期の全科目が遠隔となったこともあり、例年以上に細かく学生の状況についての意見交換・情報共有を行った。特に新入生の状況把握の必要性から１年次生を対象に Web 相談会を開催した。相談会で新入生から寄せられた不安や疑問、要望を学科会議で報告し、学科全体で共有した。導入教育に関しては、遠隔授業への円滑な移行をはかる一環として、1 年生対象の「入門ゼミ」のクラスを統一しオムニバス形式で実施した。 [2021 年度 FD 活動] ＜英語学科＞ ・深刻なコロナ禍の状況が続くため、Teams・Zoom を使用したオンライン授業をスムーズにそして効果的に行えるように教員は各自工夫をし、意見交換を行う。 ・オンラインの授業であっても、学生の質問に迅速に対応できる環境を整える。 ・本学活動制限指針レベル 2 の状況下でも演習関係の授業は対面で行われるため、特に 1 年生に関しては入門ゼミで細やかに学生の状況を把握し、オンライン授業をスムーズに行えるようにする。 ・入試課の職員から、現在の入試状況や高校生の動向について説明してもらう。 ・大学のカウンセラーから、学生の生活状況についての話を聞き、日頃の指導に役立てる。 ・入学時に行うアンケート結果と CASEC の点数を考慮してクラス編成を行い、授業の運営方法について意見交換を行う。 ・注意を要する学生について、学科会議でその学生の情報を共有し、授業運営がよりうまくいくようにお互いに助言をする。昨年度からのコロナ禍で不安を抱えている学生が例年より多いと思われるので、例年以上に情報交換を密に行う。 ・英会話・英作文の授業にコーディネーターを引き続き配置し、積上げ式の学習を可能にする。 ＜国際教養学科＞ 1. 学科会議での学科教育に関する意見交換・情報共有を継続し、連携して逐次課題・問題に迅速に対処できる体制を維持する。 2. 昨年実施しなかった在学生対象の学習状況アンケートを実施し、教育の成果や課題について問題共有を図る。 3. 導入教育のさらなる拡充について、入学前教育の改善を含めて、学科会議などで定期的に意見交換会を実施する予定である。
文学部	[2019 年度総括] 1. ラジオ番組「こちら愛大　～アイダイ・ど・文学部の時間～」（FM 豊橋）の録音・放送同番組において、文学部の教育・研究内容の提示を行い、教育のあり方の検討と教員の自己研修を実施した。放送は 2019 年 11 月から 2020 年 2 月までの全 17 回行われた。教員の出演の中には新任教員も数人含み、研究や教育に関する新しい状況を紹介することができた。ネイティブの教員、留学生や留学経験のある日本人学生も出演したが、これは文学部における国際交流の一端を示している。放送後は愛大公式ホームページに音声ファイルをアップしており、そのページにアクセスしている実例もあり、一定の成果を

収めた。
2. 人文社会学と現代に関する研究会の実施
第 20 回「人文社会学と現代に関する研究会」を以下のとおり実施した。(敬称略)
日時:　2019 年 7 月 25 日(木)　教授会終了後
プログラム:
第 20 回文学部研究発表会開催にあたって　樋口義治
司会:　臼田真佐子
「国文学」の批判的考察　空井伸一
司会:　和田明美　コメンテーター　下野正俊
質疑応答
3. 文学部内勉強会
「文学部 FD 企画　ルーブリック評価について学ぶ」を以下の通り実施した。(敬称略)
日時:　2019 年 12 月 6 日(金)　　第 3 時限
講師:　前原裕樹(経営学部)
企画・幹事:　樫村愛子(文学部)
前原先生の豊橋校舎における「教育方法論」の授業を「文学部 FD 企画　ルーブリック評価について学ぶ」として公開していただいた。少数ながら文学部と短大の教員が参加し、学生とともに新しい学修評価について学んだ。
4. 文学部内学習・教育支援委員会の活動
FD 活動の 2018 年度総括と 2019 年度計画について、文学部内学習・教育支援委員の意見を集約したうえで、教授会で議論を行った。
5. その他
卒業式が中止になったため、人文社会学科現代文化コース全教員が参加してメッセージビデオを撮影、YouTube にアップロードした。

[2020 年度総括]
1. ラジオ番組「こちら愛大　～アイダイ・ど・文学部の時間～」 (FM 豊橋)の収録・放送
文学部の教員が自身の研究や文学部の教育内容を録音し、同番組において放送された。一部において、コロナ禍における講義やゼミにおける工夫について盛り込んだ。放送は 2019 年 11 月から 2020 年 2 月までの全 17 回にわたって行われ、その後、愛知大学公式 HP 上に公開された。これを通し教育のあり方の検討と自己研修を実施した。
2. 学部紹介ビデオの作成
主に現代文化コースの教員、学生を被写体として、学部紹介ビデオを作成した（学長裁量経費・学長意向枠、現在編集中)。
3. 各学科・コースにおける取り組み
＜心理学科＞
学科運営会議において、各教員が遠隔講義の方法や資料の作成の仕方について議論を行った。
＜人文社会学科＞
現代文化コースでは、全教員が出演してコース紹介ビデオを作成した。合わせてオンラインでのコース紹介を行った。さらに、入構制限期間中の大学の現況を撮影して随時 YouTube にアップロードした（「不在の時間」)。
社会学コースでは、社会学士独自のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを定めた。また卒業論文の評価について、統一的な観点を形成した。さらに随時コース会議において、それぞれの教員の遠隔講義の進め方、資料の作成や評価方法等について情報を共有・議論を行ったほか、遠隔講義に際して問題を抱える学生の情報の共有と、対応の検討等を行った。コース 1 年生への対応としてオンライン茶話会を行うほか、入門演習では、課題型授業という形式においてグループ毎の紙上討論という新しい学習スタイルにトライし、一定の成果を得た。

[2021 年度 FD 活動]
1. ラジオ番組「こちら愛大　～アイダイ・ど・文学部の時間～」 (FM 豊橋)の収録・放送
同番組において、より教員、あるいは教員が行う講義そのものにフォーカスする内容と

	し、自己研修・授業改善につなげていく。この際、講義のライブ録音や 2020 年度の遠隔講義において利用したオンデマンド教材も活用する。 2.遠隔講義について文学部教員による懇談会等の実施 これまでの授業についての取り組みや工夫について検討することにより、遠隔講義をめぐる課題を明らかにする。 3.その他 FD 活動の上で必要なことが生じれば、随時対応する。
地域政策学部	〔2019 年度総括〕 2019 年度の地域政策学部の学部 FD 活動は、3 本柱の年度目標を掲げ、概ね遂行することができた。これらの年度目標は、本学部の恒常的に行う FD 活動内容であることから、引き続き教員の資質向上を目指したい。 〔2020 年度総括〕 コロナ禍という全く予期できない状況のなか、今まで経験のないオンライン授業を行う必要性が生じた。地域政策学部では、有識者を中心として、ライブ型授業のツール選定や、教員対象のオンライン授業学習会の企画・開催などに逸早く取り組み、その結果大過なくオンライン授業に移行することができた。 〔2021 年度 FD 活動〕 ＜年度目標＞ (1)オンライン授業の質向上を図るとともに、演習科目群やその他演習授業など実施効果が見込める科目については、学生本人、その家族、および、地域社会における安全性を十分に考慮した上で対面授業を実施する。 (2)学部開設 10 年の経験をふまえ、学部の特色ある教育の成果を振り返り課題を探る。 (3) 教学や学生生活を支える学内のさまざまな取組みを知り、連携する。 ＜活動方法＞ (1)について 教員間の意見・情報交換を促進し、オンライン授業(ライブ型、オンデマンド・資料提示型)、および、コロナ禍における演習系科目（対面授業）の質向上に取り組む。 (2)について ①大学間連携共通教育推進事業を進める中で入学前教育、初年次教育の現状や在り方を話し合う。 ②学生地域貢献事業への支援等を通して見出された地域貢献活動の教育的意義や課題を話し合う。 ③アクティブラーニングやＰＢＬの取組み成果や課題を話し合う。 ④キャリア形成支援に取り組む中で、地域に求められる人材養成のあり方を話し合う。 (3)について 教職課程センター、学習教育支援センター、図書館、学生相談室、キャリア支援課、学生課、保健室などの担当者各位を教授会に招いて意見交換する。
短期大学部	[2019 年度総括] ・「基礎演習」、「発想・議論演習」、「卒業研究 I」、「卒業研究Ⅱ」において全学統一フォーマットの授業評価アンケートを実施した。 ・学生による授業評価は、専任教員 春 32 科目・秋 35 科目、非常勤講師 春 20 科目・秋 22 科目について実施した。専任教員については、履修者の数が少ない科目を除いて、原則的に全科目について実施した。 ・初年次教育の支援及び短大での「学び」を充実させる目的から、必修科目である一年生向けの「基礎演習」において、図書館ガイダンス、語学教育研究室（ランゲージカフェ）のガイダンス、建学の理念と歴史を学ぶために大学記念館（東亜同文書院大学記念センター）見学を実施した。 ・教育環境や学生生活の改善・向上を図るため、教授会の機会を活用して、学生の悩み・相談の現状やその対応について、豊橋学生相談室と意見・情報交換を行った。

	・地域政策学部と合同でハラスメント研修を実施した。 [2020 年度総括] ・コロナ対策のために授業はオンライン授業になり、会議などもオンラインになったので、2020 年度の活動方針としていたものの多くは実施できなかった。 ・学生による授業評価は実施しなかった。 ・「基礎演習」において、担当者全員が Moodle の共通コースを運用して、統一したプログラムを実施した。 ・図書館の利用についてはネット動画を利用した。 ・東亜同文書院記念センターについてはネット動画を使って学習した。 ・入学当初からオンライン授業になった一年生のために直接顔を会わせる機会をつくるために文学部及び地域政策学部と合同でウェルカムキャンパスフェスタを開催した。 ・教員と学生との連絡手段について教授会で取りまとめを行った。 ・教学に関する新型コロナウイルス対策委員会が実施したオンライン授業についてのアンケート調査のデータについて教授会において話し合った。 ・学修成果アンケートのデータについて教授会において話し合い、理解を共有した。 ・カリキュラム改革のために、教授会の後で企画委員会を開き、短大教育の現状の問題点について話し合った。 [2021 年度 FD 活動] ・引き続き初年次教育のために、基礎演習を充実させる。図書館ガイダンスと語学教育研究室（ランゲージカフェ）のガイダンスを実施する。その科目の中で、建学の理念と歴史を学ぶために東亜同文書院記念センター見学を実施する。 ・学生による授業評価は、WEB 利用を前提として、履修者数が少ない科目を例外として原則的に全科目で実施する。春学期は、WEB 利用システム構築が間に合わないので実施しない ・教育環境や学生生活の改善・向上を図るため、教授会の機会を活用して、学生の悩み・相談の現状やその対応について、豊橋学生相談室の担当者を教授会に招いて意見交換する。 ・カリキュラム改革のために、現状の分析と改善の方法を検討する。 ・学生の実態を把握するために、社会調査法の科目においてアンケート調査の実習として学生の実態調査を行う。